



山梨岳連

紙名：野村静谷氏
 (毎日書道展審査員)
 発行 山梨県山岳連盟
 (年4回)
 発行人 秋山 泉
 編集人 広報委員会
 (深沢 健三)
 事務所
 〒400-0304南アルプス市吉田166-2
 (望月 啓治方)
 (1部 100円)

北杜市須玉町の金山平に1つの顕彰碑がある。日本に西洋流登山が普及し始めたころ、奥秩父を登山の対象として世に紹介した木暮理太郎の業績をしのび、顕彰しようと岳人や地元の人々の熱意で建てられた碑である。除幕式を兼ねた第1回木暮祭が開かれたのは1960(昭和35)年10月。以来、毎年続けられて今年、50回の節目を迎える。

木暮理太郎は1873(明治6)年、群馬県の太田市生まれ。東京帝大を中退後、東京市史の編纂に携わり、生涯をこの事業にかけた。生家から見える秩父の山並みにあこがれ、若いときから登山に親しみ、北アルプスや南アルプスに先駆的な足跡を残す一方で、自ら

50回迎える木暮祭 10月17、18日

『静的登山』現代に

名付けた奥秩父に田部重治らと足繁く通い、『秩父時代』ともいえる時代を築き、その魅力を紹介し続けた。敗戦間近い1944(昭和19)年5月7日、71歳の生涯を閉じた。

7回忌に当たる1950(昭和25)年、木暮が中心になって活動していた霧の旅会などゆかりの人たちが、金山平の奥にある岩に記念のレリーフを埋め込み、命日に集まって翁をしのんできた。しかし1954(同34)年8月の台風7号によってレリー

フの岩が傾き、周囲の木々も倒れ、無惨な姿になった。

これを知った日本山岳会、石楠花山岳会、霧の旅会、山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨支部、増富ラジウム峡観光協会、須玉町観光協会が木暮碑委員会をつくり再建に乗り出した。場所はレリーフの岩より下で、有井館の上。山道が通っていて、そこだけ平地になっていて木もまばら。金峰山が良く見えた。日本山岳会山梨支部の三井松男さん、山梨県山岳連盟の百瀬舜太郎さん、増富の八巻恭介さんらが中心になって寄付金を集め、碑文や石の選定などに取りかかった。

金山平に建つ木暮理太郎の顕彰碑



碑は大谷石で重さ約2ト。表に

胸像のレリーフとプレート、裏に日本山岳会の日高信六郎会長による由緒書き。八巻さんによると落合から予定地まで人力で持ち上げた。運び終わったとき、誰ともなくバンザイの声が挙がったという。

碑の除幕式を兼ねた第1回木暮祭は昭和35年10月8、9の両日、開かれた。出席者は日高さん、霧の旅会の神谷恭さん、石楠花山岳会の星野さんら県外から100人、地元から三井さん、百瀬さん、八巻さん、県警本部長、県観光課長ほか山岳・地元関係者が200人も参加した。木暮翁の長女・木暮美枝子さんが除幕し、尾崎喜八さんが翁を讃える詩を朗読。真つ盛りの紅葉に彩られた碑前からは真つ青な秋空に金峰山の五丈岩がくつきりとそびえていた。この様子は若き高室陽二郎記者(現県岳連名誉会長)によって山梨日日新聞で大々的に報道された。

以来、毎年10月に木暮祭は行われ、今年が50回を迎える。一方、翁ゆかりの人たちは5月の命日前後に碑前祭を続けてきた。しかし関係者の物故や高齢化で2005(平成17)年、深くかわつてきた日本山岳会山梨支部が木暮祭への1本化を決めている。木暮翁は多くの山に足跡を残し、晩年はヒマラヤの研究にも力を注いだ。特に田部重治と奥秩父に頻繁に通い、『奥秩父』の呼称を広め、登山史にいう『秩父時代』を築いた。西洋流登山の先鋭的思想ではなく、日本の登山の歴史を大事にした静的登山、山との一体化を求めた登山だった。

木暮翁は金峰山についてこう書いている。「木曾御岳でも、駒ヶ岳でも、絶えずさやかな、それでいて直ぐ心の(8面へ)」

山のニュース 山の本 山梨日日新聞 「やまなしの富士」発売中

購読の申し込みはフリーダイヤル0120・320・117

本の申し込みは055・231・3105

安田・河野が本大会へ

国体
予選 **ボルダリング若尾1位**

7月25、26日、第64回国民体育大会山岳競技関東ブロック大会が開催された。会場は千葉県立幕張総合高校。校舎の吹き抜けにある高さ15mのリード壁と幅12m4面のボルダリング壁は、規模、形状ともに素晴らしい、ブロック大会の舞台として申し分ないものだった。

ルールは概ね昨年のブロック大会・国体を踏襲するものだったが、大きな変更として今年から競技中のユニホーム着用が義務付けられ、ルールとして明記された点があった。各県2人の選手が同じ服装で競技をすることは、意外にも違和感がないばかりか、チーム競技であることを選手・観客双方が意識でき、連帯感を感じられるものだった。これもアスリートスポーツとして成熟していく課程の、1つの姿なのかもしれない。

また競技水準についてもそれは言え、リード競技は少年女子が5・12c、成年女子は5・12d。少年男子に至っては5・13cというハイレベルさで(去年は5・13a)、昨年出場していた選手たちもさらに練習を積んで上達している様子がうかがえた。選手の多くがティーンエイジャーであることを考えても、この先さらなる水準のアップは必至である。

山梨チームの成績は、少年女子では安田



新潟国体の出場権を獲得した少年女子の安田あとり(上)、河野明理(下)ペア

あとりが実力を発揮してリード・ボルダリングともに個人1位でフィニッシュ。ペアの河野明理もなんと個人11位に踏みとどまった。これにより、少年女子チームは3位に食い込み、見事本国体への切符を手にした。特に競技歴の浅い河野のがんばりは、ここに至るまでの監督の熱心な指導抜きにはありえなかった。安田監督に感謝したい。

今年の大分国体で活躍した縄重未来を擁する成年女子チームは不調に終わり6位。少年男子チームの最終結果も6位であったが、ボルダリングでは若尾龍隆があれよあれよの完登劇の末に1位をもちと、会場を湧かせてくれた。世界大会でも活躍する新田龍海(神奈川)らを超える登りができる選手はそうそういるものではないが、彼らはずか1年半のクライミング歴でこのスキルを身につけたわけで、若人の可能性は無限大である。

新潟国体は10月3〜5日の日程で開催が予定されている。少年女子チーム、そして成年男子チーム(内藤聡・畑野克実ペア 監督・渡辺晴彦)をぜひ応援いただきたい。

【ブロック大会成績】
▽成年女子(縄重未来・戸田希ペア 監督・島勇樹)リード6位、ボルダリング6位、総合6位
▽少年男子(若尾龍隆・田中慎一ペア 監督・村松久徳)リード7位、ボルダリング4位、総合6位
▽少年女子(安田あとり・河野明理ペア 監督・安田賢)リード3位、ボルダリング3位、総合3位

安田、悔しい4位 ジュニア五輪カップ

今年も富山県砺波市桜ヶ池クライミングセンターを会場に、JOCジュニアオリンピックカップが8月13日から3日間の日程で

医療法人 立史会
理事長 今井立史(スポーツドクター)

今井整形外科医院

TEL 055-232-7411

お年寄りのリハビリと介護
介護老人保健施設 **ノイエス**
TEL 055-275-1165

開催された。参加者数は男女あわせて246人というマンモスコンペに、山梨県からは過去最多の8選手が参戦。エースの安田あとり(芦川中)は、予選を1位で通過したものの、決勝では上部でデマケーションに足が触れるミスをおかして4位。記録されなかったが、1位尾上と1手差の高度まで登っていただけに悔やまれる結果となった。

他の選手は、残念ながらもすべて予選通過ならず。今回でユースカテゴリから卒業する縄重未来(県立大)も11位と、決勝枠10人に惜しくも残れなかった。総合優勝は男子が沼尻拓磨(茨城・上郷高)、女子は尾上彩(埼玉・南中)だった。

- 【男子】▽田中慎一(韭崎工高)ユースA 30位▽丸山浩(韭崎工高)ユースA 57位▽花田貴大(須玉中)ユースB 31位
【女子】▽縄重未来(県立大)ジュニア11位▽河野明理(山梨高)ユースA 23位▽安田あとり(芦川中)ユースB 4位(総合4位)▽花田莉奈(須玉中)ユースB 32位
※ジュニア(18、19歳)ユースA(16、17歳)ユースB(11〜15歳)

—— 自然保護委員会 ——

八ヶ岳と北岳で レインジャー研修



北岳の大樺沢二俣で研修する山岳レインジャー

昨年度より実施された「山梨県希少野生動植物の保護に関する条例」に基づき、山岳レインジャー活動も大幅に変化した。本年度はよりレベルアップと報告書の精査を目的に自然保護委員会枠の山岳レインジャー

を設け、合わせ高山植物学習会として実施した。講師は委員会メンバーの渡辺真悟、遠山若枝、荒木陽一の3人をお願いした。第1回は5月16日に八ヶ岳の川俣川(地獄谷)の「定経路調査」として実施し、10団体計34人が参加した。特に多数の会と山梨大学9人の参加は、高山植物の勉強に取り組みむ意欲と意識の高まりを実感した。川俣川林道沿いの樹木は二ホンシカによる皮はぎ被害が目立ち、今後食害の進行が懸念される。第1堰堤で講師による説明の後、クモイコザクラの開花状況を観察した。生育は左岸沿いのみに限られ、下

流では満開、上流には残雪もあつたせいか5分咲きも見られた。第2回は7月11、12日に北岳の二俣草すべり頂上のコースで「定経路調査」⑥④を調査し、8団体計18人が参加した。12日は鶴城山岳会のレインジャー業務に同行し勉強した。大樺沢は例年に比べ残雪が多く、全般的に高山植物の開花が遅れていた。草すべりの食害はシシウド、イタドリ、アザミなどに限られ、好みを確認された。ルート上の希少種は確認できなかったものの、それに準ずるミヤマハナシノブ、クロユリ、オヤマノエンドウなどが確認され、本年度からは可能な範囲で報告書に記載する事にした。

この高山植物学習会は毎年実施し、通算14回を数えた。講師の熱心な指導のもと、山梨岳連全体の資質向上に寄与したと思われる。今後も協力をお願いしたい。(自然保護委員長 磯野澄也)

のすいた時のおにぎりは格別だった。その後鶏冠山へ。山頂には小さな祠があり、その横はのぞき込めば足がすくむような絶壁である。目的を達成し全員無事柳沢峠に戻った。最近、中高年の遭難が多い。無理をせず自分の体力にあった楽しい山行を心がけたらと思う。(山梨メープルクラブ 河野邦次)

警察官ら23人が参加

初級ロープワーク講習会

09年度初級ロープワーク講習会は6月6日、小瀬のクライミング場で開いた。警察官6人、山梨大学山岳部13人、その他1人、白鳳会3人の23人が参加した。

8の字結びから始まり、セカンドの確保、セーフティー懸垂降下などを行った。最後は競技副委員長の渡辺さんが来てくれたので、学生は小瀬のクライミング場使用認定試験を受けた。16時終了予定が17時までだった。(遭難対策委員長 植松一好)



チャレンジ登山の参加者

黒川山・鶏冠山

チャレンジ登山 82人が楽しむ

8月9日、山梨百名山チャレンジ登山を黒川山・鶏冠山(1716m)で実施した。参加はスタッフを含めて82人。標高差約250m、所要時間約5時間の山行を無事終了した。

エルクを7時に出発。甲府駅で残りの参加者に乗せ、およそ1時間半程で柳沢峠に到着。すでに郡内からの人たちが待っていた。駐車場で秋山会長が「楽しい山行をしましょう」と歓迎のあいさつをした。各班ごとに準備運動を行い黒川山・鶏冠

山を目指す。昨夜の大雨によって流されたのだらう木の葉があちこちに堆積していた。この山は東京都の水道水源林として東京都水道局が管理し、登山道も定期的に補修され、指導標なども真新しく立派なものが建てられている。登山道以外に森林浴用のコースも設けられている。

広葉樹林帯の中をゆっくりと野鳥のさえずりやセミの声を聞きながら歩く事も時としていいのではと思いつながら歩を進めた。ミヤコザサ、ミズナラ、キハダの大木を眺めながら山頂を目指す。

黒川山頂に11時半ごろ着いた。ガスで視界は良くなり、また山頂が狭いため、少し戻ったところで昼食とした。汗をかいて腹

YATSUGATAKE

パイの家
エム・ワン

八分岳*手づくりアップルパイ

有限会社 パンの家エム・ワン
〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸5883
TEL.0551-38-4181
FAX.0551-38-4409
URL <http://www/pai-ml.co.jp>
E-mail info@pai-ml.co.jp
(地方発送も承ります)



1・2月

キリマンジャロ (タンザニア)

川島 万里子 (高根山岳会)



表 紙

ナンガ・パルバット (パキスタン)

井口 功 (樫の木山岳会)



3・4月

マナスル (ネパール)

平松 久美夫 (日本山岳会山梨支部)

カレンダー委員会 (小沢利一委員長) は、「世界の山」をテーマにした2010年岳連カレンダーの掲載作品を選定した。10月7日の理事会で配布する。

2010年カレンダー「世界の山」

川島さんらの作品採用

作品は18人から77点が寄せられた。海外登山の普及を反映してヒマラヤ、カラコルム、ヨーロッパアルプス、アンデス、アフリカなど力作が多かった。山岳写真家・上野巖さん、小沢委員長らが審査し、表紙を含む7点の作品を選んだ。
採用作品は▽表紙 「ナンガ・パルバット」井口功さん(樫の木山岳会)▽1・2月 「キリマンジャロ」川島万里子さん(高根山岳会)▽3・4月 「マナスル」平松久美夫さん(日本山岳会山梨支部)▽5・6月 「アンナ・プルナ南峰」上野巖さん(嶺朋クラブ)▽7・8月 「フィッツロ

北岳 間ノ岳 仙丈ヶ岳 甲斐駒ヶ岳 鳳凰山
百名山の玄関口

南アルプス

広河原山荘



南アルプス市広河原
電話090・2677・0828

イ 小野田久美子さん(山梨メーブルクラブ)▽9・10月 「ムスタング・アタ」三枝昌彦さん(樫の木山岳会)▽11・12月 「タムセルク」早川義勝さん(嶺朋クラブ)の7人の力作。
印刷部数は1000部。定価は1部1500円。その月の日の出、日の入り時刻、満月、新月、主な生物季節指標、24節季、登山関連行事などが入っている。(掲載写真はカレンダーにする際、トリミングします)

瑞牆・金峰・横尾の山行時には

〈コーヒー・季節料理・お食事・宿泊〉

みずがきの宿 **五郎舎**
ごろうや
でおくつろぎ下さい。



TEL(0551)45-0329



9・10月

ムスターグ・アタ (中国)

三枝 昌彦 (縦の木山岳会)

5・6月

アンナ・プルナ南峰 (ネパール)
上野 巖 (嶺朋クラブ)



11・12月

タムセルク (ネパール)

早川 義傍 (嶺朋クラブ)



7・8月

フィッツ・ロイ (アルゼンチン・チリ)

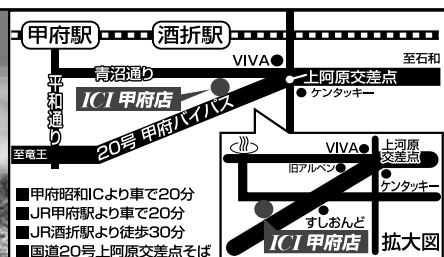
小野田 久美子 (山梨メープルクラブ)



お知らせ

冬季用登山靴として長年に渡って販売して参りました「コフラック社・プラスチック製登山靴」は、全製品の製造が終了しました。多くの登山愛好家の皆様に御愛顧頂きましたことを御礼申し上げます。尚、プラスチック製登山靴はその製品特性上、経年劣化による破壊が多数確認されております。一般的に寿命の目安は5年程度ですが、特に購入後10年以上経過している場合は、ご自身の安全を確保するためにも、使用の中止をお願いします。

登山用品全般(冬山・沢登り・クライミング・山スキー・テレマークスキー)・高所作業用品・スキー用品取扱い



IC1 万井スポーツ甲府店

〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1

TEL.055-221-0141

http://www.ici-sports.com

山 行 記 録

早川のボルダ―群 「賽の河原」初登

山梨クライマーズクラブ

岳連の中では競技関係の仕事をしているので、さぞかし人工壁が好きなのだろうと思われがちなのだが、普段は静かな山中で岩を登るのが何よりの楽しみ。特に早川流域に点在するボルダ―群は、その美しさと処女性に魅せられてもう10年も通っている。

5年前の夏、ユウスケ(佐藤)と黒桂河内を廻した際、転付峠から早川へ下ったところの側壁に、ひときわ黒い壁面を目にした。調べてみると、この岩は1994年ころ東京のクライマーによって登られた「柴トラ(注)」なるトラパス課題が1つだけあることが分かったのだが、地味な印象も加わって実際にチョークを印したのは2006年2月になってからだった。

ラインは110度に前傾した幅約12mの壁。チャート特有のエッジがちりばめられ



早川沿いの岩に挑む

中間はそれがギリギリの間隔で連続している。核心部は予想以上に難解で厳しいムーブだったが、手こずりながらも登り終えると、これは相当ユニークな課題ということに理解できた。30手に及ぶトラパスという、他ではあまりお目にかかれないタイプのボルダリングで、グレードは初段+/5・12cdくらいだろうか。柴トラは、この地を代表するテストピースとしての価値を有した素晴らしい課題だった。

柴トラに登れた後、私は未登と思われる壁面上部に目をやった。被っていた泥やコケを落としてみると、ホールドになりそうな凹凸が現れ、2007年の冬からはこれら派生する新たなラインの開拓を本格的に開始。5級/5・10+から2段/5・13aの課題を8本ほどを追加していったのだが、いよいよ残った最後の1本が厳しかった。このラインは、指先が裂けそうな細かいエッジを引きつける6手のパート(2級)に続いて、柴トラの核心部を超えるまで12手のトラパス(初段)。ここからダイナミックなムーブで一気に4mを直上(1級)した後、そこからはるか1・6m頭上のスロット状ホールドにジャンプ(3級)して終わる26手の課題だ。特に最後のランジは恐ろしく、パンプから来る弱気の虫にジャンプの精度を乱されて、恐怖のフォールを何度も味わった。

仕事柄トライは出勤前の朝の時間帯に限られ、わずか1回のトライで引き返す日もあった。そして5日目だったか、とある平日の朝。その日はたまたま仲間が一緒にリラックスしていたのかもしれない。この時期にしては冷たく乾いた風も味方してくれて、私は無事登りきることができた。それ

でも地面に降り立つと、前腕はいつものように焦げ付くように熱く怒張して、鋭いエッジで皮をえぐったのか、右手の指先からは勢いよく血が流れていた。

グレードは3段/5・13bc。ムーブが詰まった個性的な課題として完成できたことにとっても満足している。ちなみにこの完登トライはビデオカメラを回していた。youtubeにアップしてあるので、興味がある方はご覧いただきたい。(http://www.youtube.com/watch?v=O9vTybu5EuY)。

課題の名は「賽の河原」と名付けた。三途の川に住む子供が、供養のために石を積んでも積んでも最後に鬼に崩されるといいう話は、幼少の頃盆の話としてよく聞かされたが、この課題の完登までにも、厳しいムーブをつなげつなげた最後に力つきる経験を経度もするうち、そんな話を思い出して自分に重ね合わせてみた。

wikipediaで【賽の河原】を引いてみると「報われない努力、徒労の意でも使用され

山梨大が60周年式典 記念誌も発行

山梨大山岳会(川隅典雄会長)は6月13日、甲府・ニュー芙蓉で創立60周年記念式典を開くとともに、記念誌「会報 3号」を発刊した。

式典はOB・OG、現役員ら70人が出席した。同会の創立は、新制大学がスタートした直後の1949(昭和24)年6月。昭和20年代後半から30年代にかけては厳冬期南アルプス全山縦走、厳冬の塩見岳バットレスなど、冬山に果敢な足跡を記した。川隅会長は「過去の伝統を振り返り、登山

登山・アウトドアのプロジェクト
OUTING PRODUCTS
エルク
〒400-0047
山梨県甲府市徳行4-13-9
TEL: 055-222-1991
e-mail: elk@elkinc.co.jp
http://www.elkinc.co.jp
☆ホームページもご覧ください!!!

る。しかしその子供たちは、最終的には地藏菩薩によって救済されるとされる」とある。クライミングもやはり。コツコツ石を積んでこそ、真の悦びにたどり着けるのだと改めて思わせてくれる課題だった。

【注】課題名の由来はおそらく「柴田トラパス」の略 (山森 政之)

技術の向上に励んでほしい」などとあいさつした。

記念誌はA4判、102頁。あいさつ、思い出、登山年表、資料・半世紀前の山日記などの構成。年表は、創立から数年間は当時の部員からの資料提供、以降は連絡誌「BERICHT」を元に、昭和24年から平成20年の記録を収録した。山日記は、24年から32年にかけての5人の登山記録を再現した。貴重な内容が多い。

また創立前後の思い出を高室陽二郎岳連名誉会長が寄せている。戦後間もなくの大学山岳部の若々しい姿が描かれていて、一読の価値がある。

●天野 佐藤さんらゴールデンピラー登攀

天野和明さん(明大OB、甲州市出身)と佐藤祐介さん(鶴城山岳会、甲府市)ら3人が、カラコルムのスバンティーク(7028m)にある難壁「ゴールデンピラー」の登攀に成功した。

3人は6月上旬から7月中旬にかけて遠征。7月9日から5日間、壁に挑戦した。当初は未踏の北東面に挑む予定だったが、セラックなどの危険が大きく、イギリス隊が登った初登ルートに変更した。

雪崩に巻き込まれたり、途中でコンロを落としてしまうなど悪条件の中を登り切った。「これしかないという芸術的なルートだった」と言う。3人は来年もカラコルムの未踏ルートを計画している。

●佐藤祐介さんが野口賞受賞

鶴城山岳会の佐藤祐介さんが、山梨日日新聞社・山梨放送の野口賞を受賞した。

同賞は山日・YBSグループが郷土研究、文化・芸術、スポーツの部門で、1年間に顕著な業績を挙げた個人・団体に贈るもの。佐藤さんは2008年のマッキンリ一連続登攀、天野さんらとのカランカ北壁初登攀が対象になった。山岳関係では、これまで渡辺玉枝さん、天野さん、故加藤慶信さんが受賞している。

●3日間で百名山一斉登頂へ

御坂山岳会(羽田政人会長)は、創立60周年記念事業の一環として10月10~12日、会員総参加で山梨百名山一斉登頂を目指すユニークな登山を行う。

期間は10日零時から12日24時までの72時

間で、全100座に登頂しようという計画。会員2人でパーティー(場合によっては単独も)を組み、登山する。富士吉田市内にアマ無線の基地局を置き、登頂者氏名、時刻、天気などを報告。登頂写真と記録を60周年記念誌に掲載する。

理 事 会 報 告

■6月度理事会

2009年6月3日午後7時~ 県男女共同参画推進センター

○協議事項

- 1 常任理事及び各正副委員会委員長について決定
- 2 山梨百名山チャレンジ登山について

- 8月9日(日) 黒川山・鶏冠山 スタッフは7月時に募集
- 3 体育功労者表彰等の推薦について

- 執行部一任により秋山教之副会長に
- 4 その他

- 岳連ホームページの改訂(山森、野田、望月、渡辺ほか)が取り組む
- 県体育祭りは実行委員会方式にし7月に打ち合わせ

■7月度理事会

7月1日午後7時~ 甲府市総合市民会館

○協議事項

- 1 山梨百名山チャレンジ登山について

- 8/1 PM7時~ 事前学習会
- 2 岳連ホームページについて

- 使い方の講習会実施予定。委員会ごと
- 3 その他

自然公園指導員の推薦は、前回と同じ磯野(甲府昭和) 太田(雪稜)の2人

■8月度理事会

8月5日午後7時~ 甲府市総合市民会館

○協議事項

- 1 山梨百名山チャレンジ登山について

- 78人参加予定
- 2 岳連ホームページについて

- 8月中旬に講習会実施。後日、詳細をメールする
- 3 県体育祭り山岳競技

- 9月20日(日) 小瀬クライミング場

- 参加費を徴収する方向。次回に競技委員会が詳細決定
- 4 その他

- 岳連合同研修会の日程 11月7日(土)~8日(日) 三ツ峠

活 動 記 録

- 6月1日 会報76号発行
- 3日 理事会(甲府市)

- 6日 遭難対策委・ロープワーク講習会(甲府市・白山)
- 12日 岳連ホームページ検討会(甲府市)

- 20、21日 日山協国際委員会(静岡)
- 27、28日 日山協遭難対策委員会(埼玉)

- 7月1日 理事会(甲府市)
- 4日 第5回山の博覧会(甲府市)

- 5日 県自然保護大会(甲斐市)
- 10日 2010年カレンダー用山岳写真募集締め切り

- 11、12日 自然保護委・高山植物学習会(北岳)
- 25日 クライミング認定講習会(小瀬)

クライミング場

- 25、26日 第64回国体関東ブロック大会山岳競技会(千葉)

- 29日 自然保護委員会(甲府市)
- 8月1日 山梨山の日チャレンジ登山事前学習会(甲府市)

- 5日 理事会(甲府市)
- 9日 山梨山の日チャレンジ登山(黒川山・鶏冠山)

- 17日 岳連ホームページ運用説明会(甲府市)

行 事 予 定

- 9月1日 会報77号発行
- 2日 理事会(甲府市)

- 20日 県体育祭山岳競技(小瀬クライミング場)
- 26日 クライミング認定講習会(小瀬クライミング場)

- 30日 自然保護委員会(甲府市)
- 10月7日 理事会・2010年カレンダー配布(甲府市)

- 3~5日 第64回国体体育大会山岳競技(新潟)
- 17、18日 第50回木暮祭(増富・金山平)

- 中旬 山岳レインジャー報告書作成検討会(甲府市)
- 11月1日 関東地区スポーツクライミング競技会(東京)

- 4日 理事会(甲府市)
- 7、8日 第9回岳連委員会合同研修会(三ツ峠)

- 28日 クライミング認定講習会(小瀬)
- 25日 自然保護委員会(甲府市)

- 12月2日 理事会(甲府市)



フリークライミングを楽しむ会員

この春、山梨クライマーズという名称で新しいクラブを設立しました。数年前からフリークライミング主体のクラブ組織の必要性は感じていましたが、今回、岳連加盟の承認もいただけたことで最高のスタート

真剣に取り組み 楽しむクライムを

山梨クライマーズクラブが加盟

(1面から) 平衡が破れるやうな、不安に襲はれてみたことを覚えている。それであるのに金峰山の頂上では、岩に登ったり草に寝ころんだりして、ゆったりとした気持ちで、ぼんやり空を眺めてみる自分を見出したたのである。これは何たる相違であらう。そして金峰山こそは、その当時の私にとって最もふさわしい山であったに違ひなかった。味はうことを教へて呉れた山、懐

しい金峰山、これが秩父から最初に受けた私の忘れ難い印象である。また金峰山を「男の中の男、裸百貫の貫禄」と表現した(いずれも「山の想ひ出」)。最近の中高年や若い女性の登山ブームの背景には、山や自然に癒し求める姿がある。そこには先鋭的な西洋流登山ではなく、日本的、木暮的な静的登山の姿がある。没後65年。登山の変化は、木暮流登山にスポッ

トを当てることになった。第50回木暮祭は、木暮流の登山にあらためて思いをはせる機会でもある。今年10月17、18日の日程で開催する。17日は前夜祭として午後4時からリーゼンヒュッテで記念講演や懇親会、18日は午後1時から碑前で献花などの式典を行う。また正午からは、地元観光協会がキノコぼうとうをサービスする。

が切れたと喜んでいきます。また会員も少なく、活動もアイドリング状態ですが、メンバーのモチベーションは高いので本格的な始動も間近だと感じています。ここ10年ほどフリークライミングの愛好者人口は年々右肩上がりの曲線を描き、比列してその競技水準も天井知らずの勢いで伸び続けています。特にスポーツクライミングについては、昨今の若いクライマーの驚くべきスキルの高さを、皆さん耳(目)にされていることかと思えます。私の感じていた問題は、このスポーツの指導的立場にいるべき人材が、競技団体であるはずの山岳連盟内で不足していることにありました。選手経験も競技志向もないクライマーが競技会を運営する。考えてみればおかしな話なのですが、このことに誰しも気が付きながら、新興するスポーツクライミングの潮流を岳連に引き込む策をとらなかつたばかりに、慢性的な人材不足と岳連会員の世代の不均衡にも拍車をかける結果を招いています。

しかし、ここで一旦岳連外で活動しているクライマーに目を移してみると、ルートセティングの技能に秀でた人、各種クライミング資格の取得を望む人や、ジュニアクライマーへの指導に熱心な人など、指導者やリーダーングクライマーとしてふさわしい実力と人格を持ちあわせた人が少なからずいることが分かります。こうした人たちに岳連の競技事業と業務に直接関わってもらうことが、最も健全な姿であり、最善の方法というのが私の持論なのですが、彼らは登山自体には興味がない場合が多く、山岳会への入会を勧めるには難しい実情がありました。そうした人たちのクライミングのスタイルをそのまま受け入れられるクラブをつくるわけではないかという結論に達し、同志3人のクライマーとともに結成したのが山梨クライマーズクラブというわけなのです。

創設会員は私の他に安田賢(40)と内藤聡(33)の2人。それぞれ競技クライミングの選手・指導者の経験が豊富で、内藤は岩場・インドア両方のフリークライミングを10数年にわたってライフワークとしている仲間であり、県内屈指の優れたクライマーでもあります。この先、岳連内の事業に携わるのに即戦力として期待するとともに、勝手な事情をいろいろと書きましたが、山梨クライマーズクラブの理念は極めて単純です。「フリークライミングを仲間と一緒に真剣に取り組み、心底楽しむ」。フィールド、ジャンルを問わず、1人ひとりが成長を実感できるようなクライミングを続けることが私たちの理念の骨子です。またクライマーとしての成長は、良いルートとの出会いのみならず、良い仲間に出会えるかどうかにかかっていると思います。この場をお借りして新しい仲間を広く募り、良きクライミング仲間が出会い、はぐくみ合うコミュニティを目指し活動していきたいと思えます。(山森 政之)

ISO 14001 認証取得
ISO 9001 認証取得

真心と確かな技術

早野組

株式会社
代表取締役社長 早野 潔

本社/〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10 ☎055-235-1111
東京支店/〒193-0835 東京都八王子市千人町2-5-24 ☎0426-67-8800
リニューアル室/ ☎055-232-0200